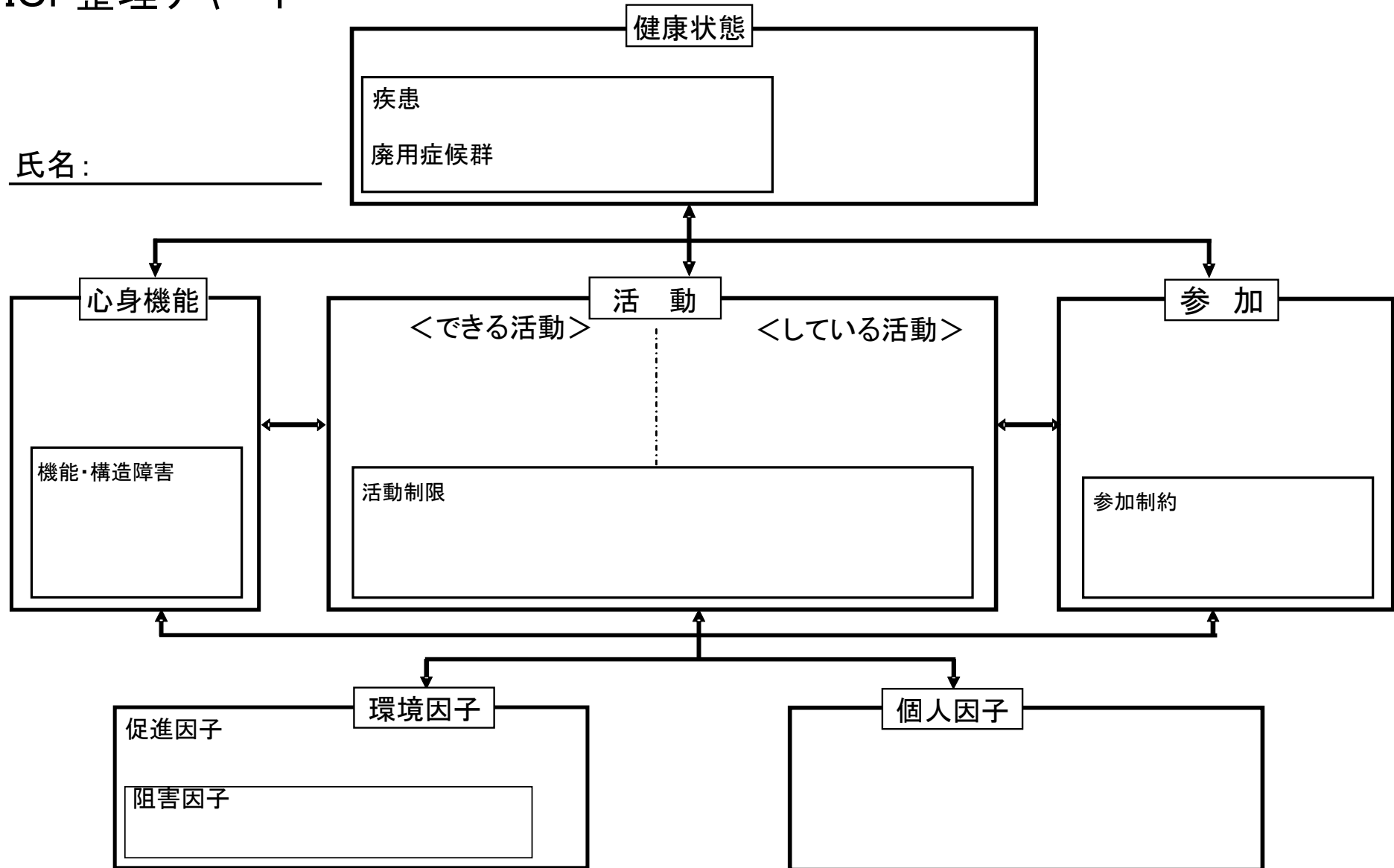


ICF整理チャート

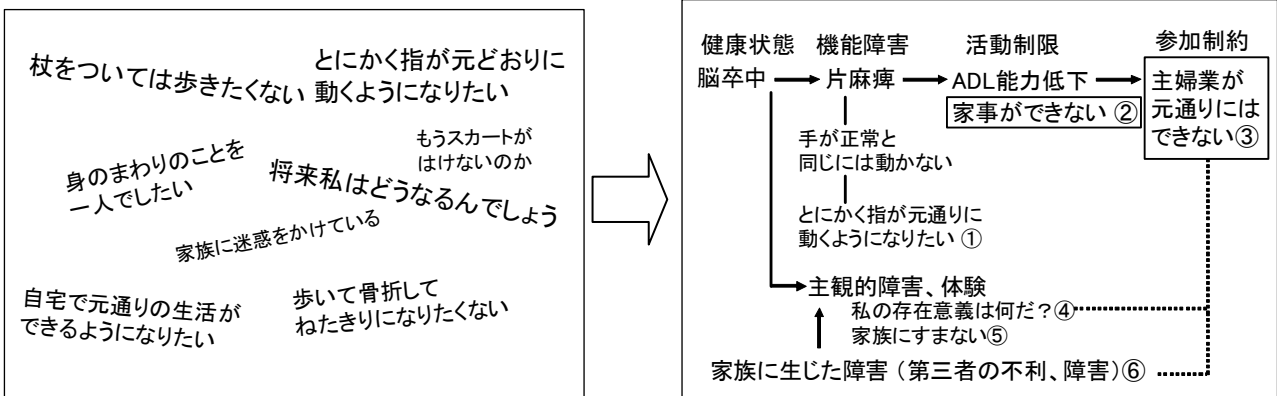
氏名: _____



※使用法: 「生活機能とは何か-ICF: 国際生活機能分類の理解と活用-」

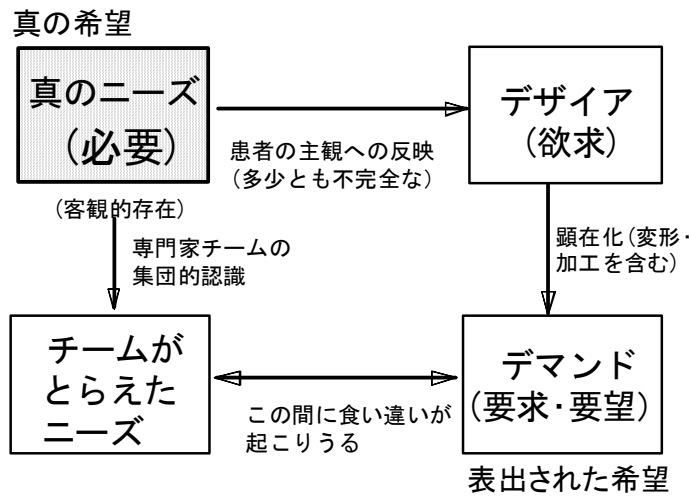
(東大出版会) 参照

真の希望を引き出す



新しいリハビリテーションー人間「復権」への挑戦ー講談社（現代新書） 第7章

参考：希望・ニーズ・デザイン・デマンドの関係



上田敏：リハビリテーションを考えるー障害者の全人間的復権。青木書店、1983

「リハビリテーション（総合）実施計画書」の記入と説明の手順

計画書の作製はリハ・チームにとっては真のチームワーク遂行の最初のプロセスであり、同時にチームと利用者・患者・家族などの当事者との共同作業の出発点である。その要点を下表に示す。

これを定期的にくり返すことで、当事者の自己決定権をチームの専門性で支えるという「車の両輪」がスムーズに進む。

利用者・患者・家族などの当事者は疑問があれば遠慮せずに専門家へ相談すべきであり、誠実にそれに答えるのが専門家の責任である。

表. 計画書の記入と説明の手順

- ・リハとは何かを説明（リハをどう思っているかを聞き、その誤解を解くようにする）
- ・生活機能の全ての側面に働きかけることへの理解促進
 - －手足の動き（心身機能）が不十分でも、生活上の「活動」能力を高め、それによって豊かな人生に「参加」することは可能であることを強調。



リハ（総合）実施計画書記入のステップ

<利用者・家族との共同作業>

タテ軸（生活構造にそった整理）

ヨコ軸（目標(左)設定のための評価(右)）

step 1. 「している活動」を聴取 [書いてきてもらうのもよい]

「お家の生活で何ができなくてお困りですか？」

－手足の不自由さでなく、具体的な“活動”（生活行為）の実行状況を聞く

step 2. 本人・家族の希望の確認・記入

「どのような生活ができればと御希望ですか？」

「できるはずがないと思わずに言ってみてください」

step 3. 「できる活動」（訓練時の能力）を説明

←専門家は「できる活動」を十分に引き出しているかを自問すべき

step 4. 「参加」レベルの「主目標」、「する活動」（活動レベルの目標）を共同決定

「どのような人生を創っていくのか」を一緒に決めていく

step 5. プログラム決定（チーム全体としての方針を決め、その上で職種毎の役割分担）



「計画書」の「交付」



プログラム実行「常に再確認を行う」



定期的な成果確認・計画の見直し（上のプロセスをくりかえす）